

今日の説教のポイント<使徒言行録2章1~42節>

①聖霊降臨、この不思議な出来事の本当の意味は？

「炎のような舌が分かれ分かれに現れ、一人一人の上にとどまった」(3節)。この場面をイメージするのは難しいですね。エル・グレコは弟子たちの頭の上に奇妙な聖霊が漂っている絵を描きました。しかしギリシア語の原文を見ると、日本語で「舌」(3節)と訳されている語は4節の「言葉」と訳されている語と全く同じです(グロサ)。つまりここでは言語のことが考えられており、神様が弟子たちを色んな言葉で話せるようにされたということが大事なことなのです。

②大事なことは何を話し出したか？ 神の偉大な業！

さらに弟子たちが色んな言葉で話し出したということだけに心を奪われてはなりません。もっと大事なことがあります。何を話したのかです。各自がバラバラな話をしたのか、そうでなかったのかです。聖書はこう記しています、「彼らがわたしたちの言葉で神の偉大な業を語っているのを聞こうとは」(11節)。色んな言葉で語り出した弟子たちの話の内容は、「神の偉大な業」つまり「神様がイエス・キリストにおいて起こされたこと」で共通していたのです。このことが、この不思議な出来事が語ろうとしている一番大事なことなのです。なぜそう言えるのか？ それは、この後に、集まった人々に向けて話し出したペトロの話がそうだからです！(14~36節)

③神様の方に向き変わった人々。聖霊なる神様が導いて下さったから！

ペトロの話を聞いて「大いに心を打たれ」(37節)、神様の方を向いて生きていく決心をする人たちが生まれました(37節以下。「悔い改め」の原意は「方向転換、回心」)。同じことは今に至るまで世界中で起こり続けています。突然の変化を考えてはなりません。この時の人々も、聖書の神様を知り、ペトロの説教を聞き、そうして初めてイエス・キリストの神様を信じる者となったのですから。その務めを果たす教会の誕生日、教会による世界中への伝道が始まったのがこの日なのです！